

# 教員研修の高度化と 校務効率化の両立を目指して

～テクノロジーとマイクロラーニングが拓く、三木市版「研修DX」の展開～

## 1 はじめに

本市では、「すべての子どもが今を幸せに感じる学校づくり」をコンセプトとして魅力ある学校づくりに取り組んでいます。とりわけ、児童生徒が学習においても「幸せ」を感じることができるよう、学校生活の大半を占める「授業」を、学ぶことの意味や価値を実感できる時間へと転換していくことを授業改革と捉え、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組を進めています。こうした児童生徒の学びの変革を支える基盤となるのは、教員の情熱と高い専門性です。

しかし、GIGAスクール構想の進展や多様化する教育課題を背景に、教職員が新しい知識や技能を習得するための「学びの時間」の確保は、全国的な課題となっています。こうした状況を踏まえ、従来の集合型研修を中心とした枠組みについても、見直しが求められています。

そこで、本市教育委員会では、研修の時間や場所に係る負担を低減しつつ、教職員の資質・能力の向上を図るため、テクノロジーと学習科学の知見を融合させた学習プラットフォームアプリを導入・活用しています。従来の集合型研修を基盤としつつ、その一部をICTを活用した学習プラットフォームへと移行し、時間や場所にとらわれない研修の在り方へと転換しました。本稿では、導入2年目を迎えた本市における「研修DX」の戦略とその成果について、詳述します。

## 2 学校現場の現状

### (1) 勤務実態調査が示す時間的制約

文部科学省の「教員勤務実態調査（令和4年度・確定値）」によれば、教員の1日あたりの在校等時間は、小学校で10時間45分、中学校では11時間1分と長時間に及んでいます。

また、授業時間以外にも児童生徒への対応や給食指導、部活動指導など業務は多岐にわたり、放課後に実施される集合型研修は重要な学びの機会である一方、校務の状況によっては参加の調整が必要となる場面も見られます。

### (2) 高度化・多様化する専門性と実践知の継承

一方で、ICTを活用した授業スタイルへの転換や社会の変化に即した新しい学びの実践など、教員に求められる専門性は拡大しています。加えて、本市では若手教員の割合が高まっており、ベテラン教員の実践知や指導技術を組織的に継承する仕組みの構築が求められています。

### (3) 教員の孤立化と心理的負担

教員の業務は教室という独立した空間で行われるため、他の教員の実践に触れる機会が限られています。その結果、指導上の悩みを抱え込みやすく、不安や負担の要因となることがあります。

こうした課題に対応するため、教員同士がつながり、継続的に学び合う「学びのコミュニティ」の形成にDXが活用できないか検討しました。

### 3 本市における研修改善の取組

前述の課題に対応するため、本市教育委員会では、研修講座の設計に当たり、次のような工夫を行いました。

本プラットフォームでは、授業改善を中核としつつ、教員に求められる多様な専門性に対応するため、研修コンテンツを複数の領域に整理し、体系的に提供しています。

具体的には、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」や探究的な学びの実現に向けた授業づくりなどの学習指導に関する内容を中心に、生徒指導や不登校対応、特別支援教育や人権教育、ICT活用や業務改善、保護者対応、初任者研修等、幅広い分野にわたるコンテンツを整備しています。これらは合計約80本に及び、教員一人一人の経験や課題に応じて選択的に学ぶことができる構造としています。

#### (1) 「隙間時間」を活かせる短時間の学び

「まとまった時間確保が難しい」という課題に対し、本市では、研修内容を短い単位に分け、1本あたり10分程度で学べるように構成しました（いわゆる「マイクロラーニング」）。教員は、校務の合間や移動時間などの隙間時間を活用し、スマートフォンやタブレットから自らのペースで研修コンテンツにアクセスすることができます。

これにより、時間や場所の制約にとらわれることなく、それぞれの状況に応じて学びを進めることが可能となりました。

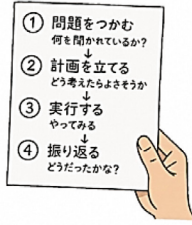
#### (2) 「見やすさ」を重視したコンテンツ

動画コンテンツには字幕と音声を付すことで、短時間でも内容を理解しやすい構成とし、視聴に伴う負担の軽減を図っています。

また、AIを活用し、教育現場のニーズに応じた知見を適時に配信できる仕組みを構築しています。

#### 「見やすさ」を重視したコンテンツ一例

— 「授業改善」に関する動画の一場面 —



① 問題をつかむ  
何を聞かれているか？

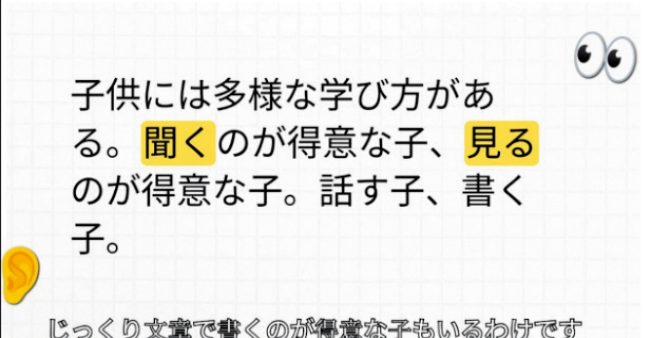
② 計画を立てる  
どう考えたらよさそうか

③ 実行する  
やってみる

④ 振り返る  
どうだったかな？

4. 振り返る  
どうだったかな？  
「問題って、解き始める前に、こういう順序で考えていくと分かりやすくなるんだ。」  
「この“行きつ戻りつ”を繰り返すことが、“考え続ける力”を育てるんだよ。たとえ途中で止まっても、また立ち戻ればいい。そうやって考えを深めていく子も多いから

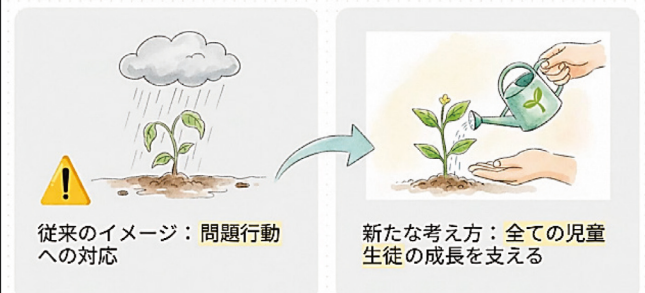
— 「学力向上」に関する動画の一場面 —



子供には多様な学び方がある。聞くのが得意な子、見るのが得意な子。話す子、書く子。

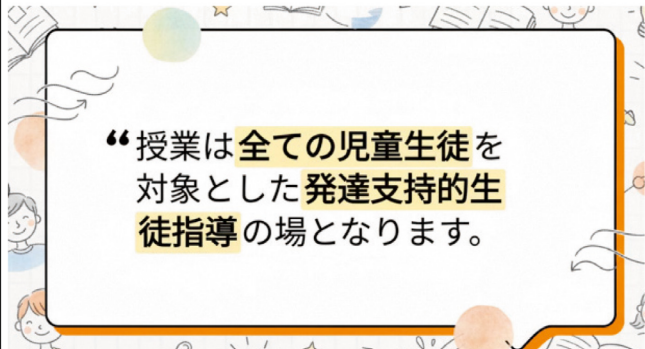
じっくり文章で書くのが得意な子もいるわけです

— 「生徒指導提要」に関する動画の一場面 —



従来のイメージ：問題行動への対応

新たな考え方：全ての児童生徒の成長を支える

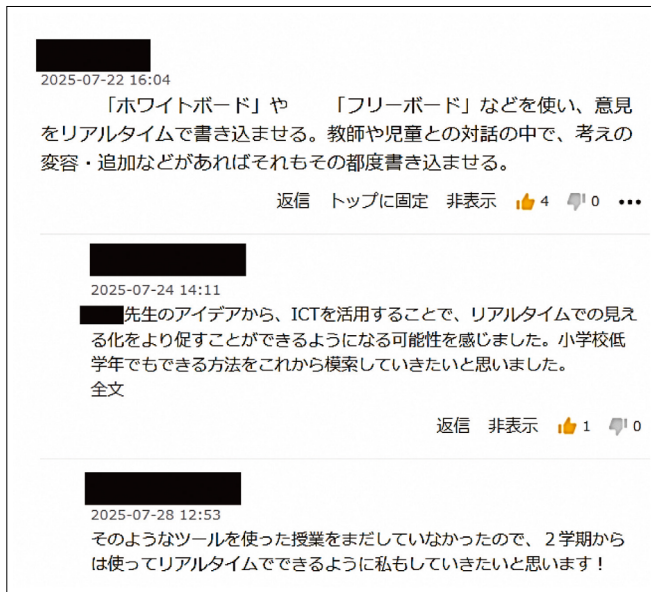


“授業は全ての児童生徒を対象とした発達支持的生徒指導の場となります。”

### (3) 学び合える場づくり

さらに、「いいね!」やコメント機能を通じて相互に評価し合うことで、教員同士が認め合い、学び合う風土の醸成をめざしています。

#### 意見交換の場面の一例(実際の画面)



## 4 学びを実践につなげるためのステップ

得た知識を実際の授業に生かす契機を創出するため、プラットフォーム上に次の「学びのステップ」を設けました。

### (1) 視聴前の自己省察

本編の視聴に先立ち、「あなたの理想の授業を一言で表すと?」といった問いを提示しています。こうした問いかけにより、受講者は自身の経験や既存の知識を想起し、これから学ぶ内容と関連付ける準備を行います。

### (2) 視聴後の振り返りと共有

動画視聴後には、研修内容を振り返り、「明日から教室で実践したいこと」等について記述する機会を設けて

います。さらに、これらの内容を教員同士で共有することにより、新たな気づきの獲得や実践への意欲の向上につなげています。

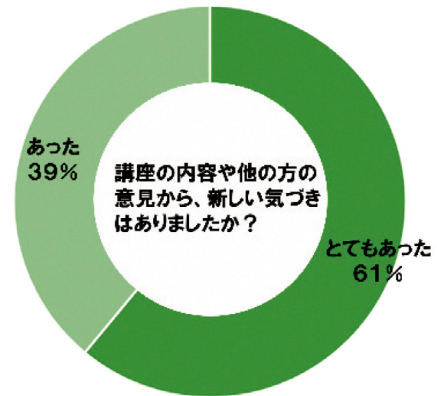
## 5 アンケート調査にみる受講者の反応

### (1) アンケート結果(数値)より

受講者アンケートの結果から、本取組に対する肯定的な評価が確認されました。

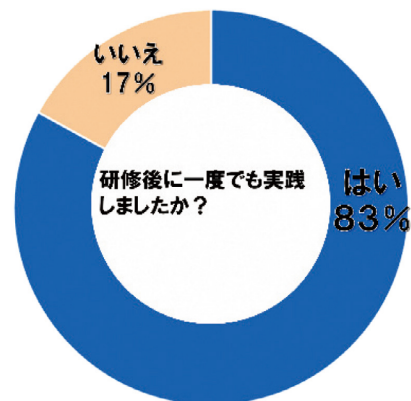
#### ① 新しい気づきの実感

受講者の100%(とてもあった61%、あった39%)が、研修を通じて新たな気づきがあったと回答しました。



#### ② 実践への移行

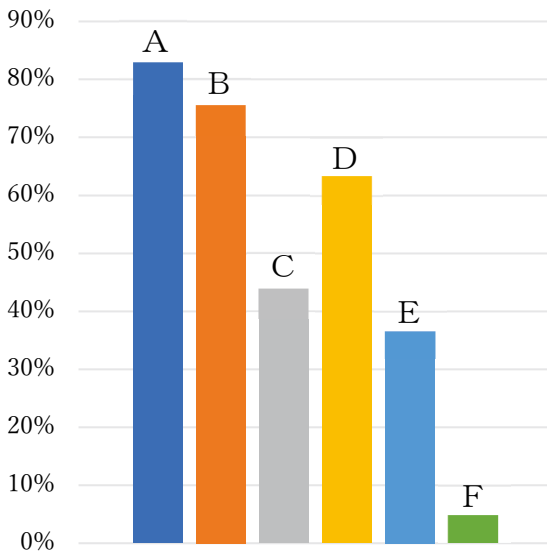
研修受講後に、その内容を一度でも教室で実践した受講者は83%に達しており、多くの受講者が学びを実践につなげていることが示されています。



### ③ オンライン研修の利便

「自分のペースで受講できた」と回答した割合は82.9%、「隙間時間を活用できた」と回答した割合は75.6%となっており、オンライン研修の有効性が受講者に認識されていることがうかがえます。

集合研修ではなく、オンライン研修についてあてはまるものをすべて選んでください。



- A. 自分のペースで受講ができた
- B. 隙間の時間に受講ができた
- C. 見返すことがしやすかった
- D. 他の人の意見を見ることで新しい学びがあった
- E. 自分の考えをアウトプットすることで、思考の整理ができた
- F. その他

## (2) 自由記述欄より

自由記述欄からは、受講者の具体的な実感や変容が確認されました。

### ① 研修内容の理解

「文字資料では読み飛ばしてしまいがちな内容も、動画と音声によって理解しやすくなった。視覚情報の重要性を再認識した。」

### ② 実践への活用

「夏季休業中に受講し、教科書を参照しながら2学期の授業づくりを具体的に構想することができた。繰り返し視聴できるため、自身の授業案と学びの内容との整合を確認できた点も有効であった。」

### ③ 他の教員の実践や意見

「他の教員の意見を共有できたことで、経験年数にかかわらず共通の課題があることに気付き、安心感につながった。多様な実践に触れることができ、学びが深まった。」

## 6 今後の展望

三木市の取組は、まだ始まったばかりです。今後、研修DXを一層推進していくため、次の三つの取組について検討を進めています。

### (1) 「アンバサダー」の設置

研修に意欲的に取り組み、積極的に発信を行う教員を「アンバサダー」として位置付けます。教育委員会からの発信に加え、現場の教員が主体となって情報発信や実践の共有を行うことで、学び合う文化の醸成を図ります。

### (2) 教員による「ミニ講座」の開設

教員一人一人の得意分野や日々の授業における実践上の工夫を、短時間の動画として共有する「ミニ講座」を設けます。これにより、教員同士が互いの実践を参照しながら、授業改善に資する具体的なアイデアを共有できる学びの場の形成を目指します。

### (3) つながりの強化

本プラットフォームを、単なる研修の場にとどめず、教員同士が日常的につながり、学び合うことのできる基盤として発展させていきます。質問機能や最新の教育

情報の発信等を通じて、必要なときに相互に支え合える環境の整備を図ります。

## 7 おわりに

DXの本質は、単にデジタルの仕組みを整備することにとどまるものではありません。教員一人一人が持つ「子どもたちのために」という思いを支え、日々の業務負担の軽減と資質・能力の向上の両立を図ることに、その意義があると考えています。

本市における教員の学びの取組を持続可能なものとして確立し、子どもたちの未来を創る力へとつなげてまいります。